

## 【群舞ジュニア部 講評】

- ダンサー 一人ひとりが自分の意思を持ち、舞台に立っていることが感じられ、そのひたむきさや意識の高さがとても印象に残りました。それぞれが大切に踊っている思いが伝わってきます。一方で、全体としての一体感という点では、少しだけ気になる部分も。  
タイミングを合わせるための呼吸が客席まで届く場面では、互いを感じ合うというよりも、その音をきっかけに動いているように見えてしまい、作品の良さが失われてしまった時がありました。音楽を感じ、目線や互いの空気感を感じながら一つの作品にしてほしいと思いました。
  
- 群舞の作品は、本当に沢山の苦労もあった事と思います。やはり1つ1つのテクニックがきちんと揃っている作品とそうでない作品で見え方が違ってきます。それぞれが呼吸をあわせレベルアップしていく事を目指して下さい。今後も沢山のの方々に出演して頂く事を願っています。お疲れ様でした。
  
- テーマに沿って、しっかりとした構成を持った作品が多く見られました。普段学んでいるテクニックをベースとしつつも、作品世界をたちあげるために必要となる動きが熟慮されている作品には独自性があり、観ていて新しい発見がありました。  
芸術とは新しい価値を創造しゆくものです。内的動機を大切に、自分達らしいダンス表現を模索して行って下さい。
  
- 身体の訓練はとても大切ですから、群舞こそ、しっかり行い続けて下さい。表現したい内容を仲間と共有するだけでなく、それからイメージがふくらんでいくような空間のきらめきを大事に。全員で一つの世界を創り上げる楽しさを味わって、来年もがんばって挑戦して下さい。
  
- 群舞は全員で合わせる努力も必要で、精一杯な姿はすばらしいです。もう一步踏み込んでテーマの追求が出来れば更に良いと感じました。

- 高い身体能力、技術が年々向上します。その中でいかに群舞性が表れるかが大切ですが、あくまでも舞台芸術であるということを意識してほしいと願っています。美しさの追求こそがこの部門の着地点であることをのぞみます。
  
- 今回の上演を通じて感じたのは、与えられた振付を正確にこなす技術は確実に向上している一方で、それだけでは観客に届くのは難しいということです。振付の意図や構成を自分なりに解釈して、自分の内部に取り込んだ上で、立ち上げていくことが大切です。また周囲のダンサーとの距離感や呼吸などの微妙な要素が全体の密度を決定していきますので、自ら他者との関係を作っていくことに挑戦して下さい。
  
- 十数人の集団、デュエット、それぞれに工夫があって面白かった。集団は動きの多彩さ、たとえば全体と個の異質な関係、またアンサンブルの力強さ、あるいはドラマを視覚化したものなど。デュエットは2人の関係にいろいろなパターン、たとえば物理的空間的動きの組み合わせ、あるいは人間的な心のふれ合いなど。これらをテーマ（タイトル）の表現にどうつなげるかをさらに磨いてみては。
  
- 今回は大人数の作品、ペア作品と評価する側も悩みましたが、ただ動くのではなく、表現する心が揃った作品が印象に残りました。仲間と共にジュニアの今だからこそできる表現を大切に、これからもこの部門に多くの挑戦が見られたらと思います。